

引き受けるというのは、現状においては非常に厳しい状況であるということも認識を願いたい。

**問** 地区として、防犯灯の維持が難しくなった場合の対策について、本市の考えを問う。

**答** 各地区の自主的な防犯活動の一環として設置している防犯灯には、それぞれの地域性があり、市で統一的な管理を行うことは難しいと考えている。しかしながら、今後の人口動態や地区の活動状況を見る中で、必要最小限度の防犯灯については、市としても、こういった対応ができるのかについて、検討しなければいけないのではないかと考えている。



井上 将 議員

**問** 最新の空き家実態調査の結果と今後の対策計画について問う。

**答** 令和6年度の調査では、総数が1369件と前回の調査より131件増加し、特に長屋住宅、店舗、事務所の増加が顕著となっている。老朽度・危険度ランクの推移をみると、良い状態のものが減っている。新たな計画では、特に管理不全空き家への対策強化等、老朽危険空き家に対する行政代執行等を含めた新たな対応を計画の中で検討している。

**問** 空き家バンクの実績が過去5年間で登録41件、契約件数26件と少ないように感じるが今後の対応について問う。

**答** 空き家実態調査で得た状態の良い空き家へ優先的に戸別訪問し、可能な限り所有者への接触を図り、空き家バンクへの登録を促すことで、登録物件数の増加を見込む。

**問** 空き店舗の活用促進のため、空き店舗バンクの創設としてはどうか。

**答** 空き店舗バンクの整備については、既存市街地の活性化と移住定住施策を推進するうえで、重要な取り組みと考えている。令和7年度は、都市部から新たな発想、視点を持った意欲のある人材を地域おこし協力隊として募集し、商工会議所や市内の不動産事業者などと連携しながら、空き店舗情報の収集、所有者とそれを活用したい方とのマッチング等に取り組んでいきたい。

### 学校体育館の空調設備の設置について

**問** 設置にかかる費用と光熱費について国から新たな交付金が創設されたが、その交付金を活用して体育館の空調整備の設置を行うべきではないか。

**答** まずは音楽室や理科室などの特別教室においての設置を優先したい。令和7年度については、特別教室への空調設備の設置と蛍光灯、体育館の水銀灯などをLED化する設計予算を計上しており、これらの設置に要する期間については、2、3年程度かかる

ものではないかと考えている。

**問** 災害は待ってくれない。特別教室の空調設置をする事業が終わってからは速度感が遅いのではないかと。

**答** もちろん早くしなければならぬ。避難所として空調設備を設置して、子どもたちが使っている体育館の機能を損なわずに避難所としての役割に運営をしていくのか、津波浸水区域内にある学校への対応、体育館の断熱についてなど難しい点が多々ある。先進的に導入している自治体の問題点も確認をしながら、まずは子どもたちの学ぶ環境整備、そして住民の命をつなぐ整備として、避難所の施設整備について取り組みたい。



野々下 昌文 議員

### 市長の政治姿勢について

**問** 令和7年度を中心となる施策を問う。

**答** 来る南海トラフ地震への備えとして、着手から3年目を迎える宿毛市事前復興まちづくり計画策定事業などの「防災対策」に加え、急激に進行する人口減少問題に対して、婚姻数の増加を目的とした出会いの機会の創出などを図るための施策や積極的な情報発信等による移住促進施策などを推進する「人口減少対策」の2点に重点的に予算配分を行っている。

### 防災対策について

**問** まちづくり計画のアンケートでは、津波被災後、多くの市民が長期間の仮設住宅住まいを想定しているが、早期復興を目指すとなると現地復興ではなく、移転復興を見据えなくてはならない。市民の意に沿わない計画になるのではないかと所見を問う。

**答** 早期復興を実現するため、移転復興を視野に入れた計画は必要であると私は考えている。長期浸水が収まった後、エリアによっては、現地復興